

令和7年第3回伊仙町議会定例会
令和6年度伊仙町一般会計他5特別会計歳入歳出
決算審査特別委員会委員長報告

令和6年度伊仙町一般会計他5特別会計歳入歳出決算審査特別委員会の委員長報告をいたします。

去る、令和7年9月9日に当特別委員会に付託されました令和6年度伊仙町一般会計他5特別会計歳入歳出決算は、9月12日から9月18日までの4日間、議長並びに議会選出監査委員を除く12名の委員で審査いたしました。

まず、9月12日に行われた現地調査について、委員並びに議長を含む11名で、令和6年度決算に係る主な箇所について現地調査を行い、町長をはじめ担当課長並びに担当職員から詳細な説明を受けました。

調査場所は、喜念小学校新校舎、喜念浜海浜公園、ミンツキ遺跡、義名山公園総合グラウンド、鹿浦小学校の仮校舎として使用している旧農業高校までの全5か所の調査を行いましたので主な事項について報告と要望をいたします。

・令和6年度において実施された喜念小学校屋外教育環境施設整備事業では、主にグラウンド、排水工事、外構工事が行われていますが、事業費の都合により当初予定されていた、旧幼稚園建屋の解体工事の中止、教職員専用の駐車場を含む一部通路が未舗装の状態でありました。旧幼稚園は昭和62年に完成され築38年が経過、外壁は欠損し、床は腐食した状態でとても使用できる状態ではなく、台風等による二次被害も想定される危険な状態であると感じられたため、早急な対応を講じるとともに、子どもたちや教職員が安心・安全に過ごせる環境整備に取り組まれるよう要望します。

次に、喜念浜海浜公園について、平成16年度から5か年計画により遊歩道、展望デッキ、ロジ、駐車場、公衆トイレ等の整備が行われた当公園は、太平洋を一望できる町内有数の景勝地であり、またウミガメの産卵地としても知られる希少な観光資源となっていますが、整備から15年以上経過していることにより、遊歩道の亀裂や展望デッキの屋根部分の腐食、雑木により景観が損なわれている箇所等が見受けられるため、早急な対応が必要だと感じられました。また、喜念浜は闘牛のトレーニング場所としても利用されていることから、ウミガメの産卵箇所の注意喚起徹底と海岸への入り口は観光客と闘

牛との降り口を分けて整備するよう要望するとともに、宿泊施設として指定管理を行っているロッジについて、今後の財政負担を鑑み、償還期限後は払下げ等も検討されるよう申し添えます。

次に、町内遺跡発掘調査等事業について、ミンツキ遺跡を視察しました。本町の高等教育フィールドワーク推進事業を活用し熊本大学より教授と学生一行が研究の一環として発掘調査を行っておりました。1.5メートルほど発掘した先からは、昔の水田跡の土層やカムイヤキの破片も発見され、先人たちの生活様相や農業の痕跡など、今回の調査によって新たな発見もあったとのことでありました。また、9月6日には町内の子どもたちを対象に歴史や文化を学ぶ「発掘調査体験」も開催するなど、大学生と地域との交流を深める素晴らしい取り組みだと感じられましたので、今後も継続的に実施されるよう申し添えます。

最後に、鹿浦小学校が仮校舎として使用している旧農業高校跡地を視察しました。夏休み期間に引っ越し作業を行い2学期より仮校舎での学校生活スタートし、毎日往復1回のスクールバスでの登下校も問題なく、子どもたちも楽しく過ごしているとの説明でありました。教職員の先生方から指摘もあったように、音楽室、特別支援

教室の照明が少し暗いように感じられましたので、基準に適した照度を確保し、快適な学校生活が送られるよう対応を求めます。

次に9月16日から17日までの2日間、本議事堂で行われた令和6年度決算審査特別委員会の室内審査において、委員より指摘や要望のあった主な重点事項について報告いたします。

・まず歳入に関し、監査委員意見書にも指摘のとおり、限られた自主財源の本町にとって、町税収入等は町財政を支える根幹^{こんかん}であり、厳しい財政状況の中で、税負担の公平性の観点からも一層の努力が求められると同時に、後年度以降の財政運営が非常に厳しいものになると予測されていることから、各種事業の峻別を行い、思い切った削減策を講じる必要性も感じられます。また、徴収対策について本町にとって長年の課題となっている住宅使用料や農林水産業分担金滞納分については、弁護士等と協議を行い、早期解決に向け全力で取り組まれるよう要望します。

・令和6年度のふるさと納税「きばらでえ伊仙応援寄附金」について、納税実績として約4,600万円であり、前年度と比較しても大幅な減少となっています。減少要因について十分に検証し、他自治体の成功例を参考に本町返礼品の課題や必要に応じた専任職員の配置などを

検討し、より一層ふるさと納税の増額に努めること。また、これまで本町ふるさと納税の返礼品として人気であったふるさとレストラン食事券については、関東圏のみでなく、関西圏への展開も視野に検討すること。

- ・次に歳出に関し、起業支援補助金を活用し阿権浜しぜん館を拠点に子育て世代への環境教育や島の魅力を発信する素晴らしい取り組みが行われているとのことではありますが、町民への積極的な周知を行うよう要望します。

- ・次に指定難病者旅費助成事業について、令和6年度においては4名8回の助成が実施されたとのことではありますが、本事業は1名に対し年間2回までの助成上限が定められているのが現状であります。現在本町には72名の該当者がいることを鑑みると、果たして十分に事業が浸透されているのか懸念が残ることから、周知方法や助成の制限について再度検討されること。また当該事業のみならず、申請等の事務手続きにおいてはできるだけ簡素化し、町民へ寄り添った事業遂行のあり方を検討されるよう要望します。

- ・次に、健康増進事業について、「長寿と子宝のまち」を掲げる本町にとって、特定検診は町民の命を守る上でも非常に重要な事業であ

ります。広報誌や様々なイベント等を活用するなど積極的な受診勧奨を行い、病気の早期発見、早期治療に繋がられるよう努めていただきたいと思います。

・次に、監査委員意見書において指摘のあった、契約に関する指摘事項については、これまで議会においても度々疑念を持たれている事案であります。高い落札率、安易な随意契約、指名入札のあり方など、職員は公務員としての責務を自覚し、常に公平かつ公正な姿勢で業務に遂行されるよう要望します。

・次に、徳之島交流ひろば「ほーらい館」特別会計について、開館から17年が経過した同施設は、島内唯一の健康増進施設であり、町民の憩いの場としても非常に重要な役割を担っているものの、会員の減少や経年劣化による維持費負担の増大によって一般会計からの繰り出し金は令和5年度に比べ、わずかに減少しているものの今後施設の大規模改修等も見込まれていることから、経費の効率的な活用を図る意識が不可欠であります。委員より、後期高齢者等へ対し利用料助成を行うことで会員増加が見込めるのではないかと。この意見があった事等を含め検討されるよう要望します。

最後に、議会からの指摘事項や要望等は真摯に受け止め、本委員長

報告の取り扱いについては、課長会をはじめ、全職員へ共有し改善を図るよう努めるとともに、より良い財政計画の下^{もと}、職員一人ひとりが常に危機意識を持ち健全な財政運営に努めるよう要望します。また、委員長報告に対する措置状況について議会への報告も行っていただくよう申し添えます。その他詳細な質疑や指摘事項につきましては皆様ご承知のとおりでありますので省略させていただきます。

以上、決算監査意見書指摘事項の改善を図る事と、特別委員会の要望意見改善状況につきましては、今後議会において検証いたしますので執行部におかれましては、改善対応を要望いたします。令和6年度一般会計歳入歳出決算他5特別会計決算について、本委員会では、それぞれ「認定」すべきものと決定いたしました。

以上で、報告を終わります。

令和7年9月19日 決算審査特別委員会委員長 杉山 肇